

まもなく出穂期を迎えます！ ～赤かび病防除は適期に行いましょう！～

1 生育状況と赤かび病防除

令和7年産麦は播種後、気温が平年並に推移し、降雨が比較的少なかったため順調に生育していましたが、2月の降雪により生育はやや緩慢になっています。そのため、出穂期・開花期は平年並みになると予想されます。

赤かび病の防除効果を高めるため、遅れずに適期（開花始め～開花期）に防除を実施しましょう。



赤かび病に罹病した小麦

◎赤かび病の防除時期の目安

(中山間:11/5～11/15播き、湖辺・平坦:11/10～11/20播きの場合)

出穂期予想 ※ほ場全体の40～50%が 出穂した日	1回目 開花始め～開花期※	2回目	3回目
4月5日頃～	<u>4月15日頃～</u>	1回目防除の 7～10日後	注意報や多発が 予想される場合

※開花始めとは、ほ場の穂のうち10%開花した時期のこと。

開花期とは、ほ場内の穂のうち40～50%開花した時期のこと。

表2：使用できる薬剤一覧（例）（令和7年3月25日時点）

薬剤名	散布方法	希釈倍数・使用量 (10aあたり)	散布量 (10aあたり)	使用時期	使用回数
ミラビスフロアブル	乗用管理機など	1500～2000倍	50～150L	収穫7日 前まで	2回以内
	無人航空機	8～16倍	0.8L		
ワークアップ粉剤DL	動力散布機など	3kg	—	収穫7日 前まで	3回以内
ワークアップフロアブル	乗用管理機など	2000～3000倍	60～150L		
	無人航空機	10～24倍	0.8L		
トップジンM粉剤DL	動力散布機など	3～4kg	—	収穫14日 前まで	2回以内

農薬使用時には、必ず容器のラベルを確認し、登録内容にしたがって使用してください。

< 注意点 >

- ・「びわほなみ」は赤かび病に弱いため、**必ず2回防除をしましょう**。
- ・開花した時が最も赤かび病にかかりやすいので、開花始め（ほ場内の穂の10%が開花）の薬剤散布がより高い効果を期待できます。
- ・播種時期や今後の気温の経過により出穂期から開花期までの日数が変わることから、ほ場の生育状況を確認し防除を実施してください。
- ・薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続き、赤かび病の**多発が予想される場合**は、**3回目の防除**が必要ですので関係機関等からの情報にご注意ください。

2 実肥施用について

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。実需者の求める品質評価基準を満たすため、実肥を施用しましょう。なお、穂肥に緩効性肥料を施用した場合は、実肥は必要ありません。

施肥体系	実肥	施用時期と施用量の考え方
分施体系	硫安 20kg/10a	・出穂10日後に施用する。 ・穂数が少ない場合は施用量を半分程度に減らす。
低コスト 後期重点体系	硫安 10～20kg/10a	

3 排水対策の徹底

排水不良ほ場では、麦が湿害を受け、生育不良となり肥料を吸収しにくくなります。今一度、排水溝（明渠）の溝さらえを行い、排水対策を徹底しましょう！